

令和5年度第2回安城市スポーツ推進審議会 議事録要旨

日 時	令和6年2月6日（火）午後2時～3時30分
場 所	東祥アリーナ安城 3階 第4会議室
出席委員	香村直廣委員、桑田智委員、香村恵介委員、太田妙子委員、外山大輔委員、近藤亜衣委員
欠席委員	野村富雄委員、四ツ井初美委員、杉山恵子委員、栢山美鈴委員
事務局出席者	教育長（石川）、生涯学習部長（加藤）、スポーツ課長（津口）、スポーツ課長補佐（岩井、内藤）、スポーツ振興係主査（近藤、小木曾）
次 第	<p>1 市民憲章唱和</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議題</p> <p>（1）第2次スポーツ振興計画改訂版に係る令和5年度事業実績について</p> <p>ア 個別事業の実績について</p> <p>イ 目標値の達成状況について</p> <p>（2）第2次スポーツ振興計画改訂版に係る令和6年度事業計画（案）について</p> <p>4 その他（第3次スポーツ振興計画策定について）</p>

※市ホームページで公開する際には、委員名は公表せず、全て「委員」で統一します。

1 市民憲章唱和

2 あいさつ

石川教育長

3 議題

（1）第2次スポーツ振興計画改訂版に係る令和5年度事業実績について

【事務局説明】資料P1～44

【質疑応答】

（委員）

資料5ページの「ホームチームサポーター事業の推進」についてお伺いします。クリニックを実施されていますが、対象チームと対象学校はどのように選定されているのでしょうか。

（事務局）

ホームチームと日程を調整し、実施しています。対象学校については、特定の学校にならないよう幅広く実施しています。

(委員)

資料2 4ページの「スポーツ指導者養成講習会への参加促進」についてお伺いします。受講者人数が減少しているという課題があったと思われます。私自身、スポーツ指導者養成講習会が開催されていることを知りませんでした。部活動の地域移行が進むにつれて、指導者の質をあげていかないと子供たちの環境も変わらないので、指導者の質が高まるよう取り組んでいただきたい。

(事務局)

部活動の地域移行に伴いまして、ジュニアへの指導の仕方についてカリキュラムに追加しました。周知についてはホームページや広報紙で募集していますが、受講人数も減少していますので、次年度に向けた課題とさせていただきます。

(委員)

資料3 1ページの「中学校部活動の運営支援」についてお伺いします。受け皿の確保が課題であり、中學生日曜教室の種目拡充を図っていくとの説明がありましたが、その他どのような取組みを予定していますか。

(事務局)

中學生日曜教室に関しまして、令和6年度はこれまでのハンドボール・バレーボール・剣道に加えて、卓球・サッカー・陸上を新たに始める準備をしています。まず4月から9月までの期間として、夏場を避けた10回程度を予定しています。また、各地域の中學生の受け入れ団体についても来年度以降も引き続き、受け入れてまいりたいと考えています。

(委員)

私もバスケットボールの地域移行について、バスケットボール協会・スポーツ課・学校教育課と地域クラブの代表として、検討してきました。このような活動も是非発信できればと思っています。また、バスケットボールの地域移行は安城市でも先行していると思いますので、モデルケースとして、ピンチをチャンスに変えることにより、子供たちのより良いスポーツ環境を構築できればと思います。そして、この取組みをバスケットボールだけではなく、他の種目でも広がればと思います。

(事務局)

協会にご協力いただいて、大会の枠組み等をやっていただけると長く続く取組みができると考えていますので、これからもよろしくお願ひします。

(委員)

スポーツ指導者養成講習会への参加が減少したとの報告がありました。私も1コマ担当しましたが、若い人がおらず、ほとんどが60代以上の方でした。第2次スポーツ振興計画の現状の課題において、指導者の抱えている問題は「指導の時間が十分に取れない」ことが最も高くなっています。総合的な周知も重要ですが、指導者の時間の確保をセットで検討しないと根本的な解決には繋がらないと思います。行政だけではなく、企業も巻き込むことが重要だと思っています。例えば、愛媛県の伊予鉄グループがニュースになっていまし

た。昨年10月から完全週休3日制を導入して注目されています。空いた時間はスポーツ指導を始めた人もいと報道されていました。物理的な時間が取れるよう行政側からも企業に働きかける等、指導者が携われる仕組みができると良いと思います。

(事務局)

企業への働きかけまではできていない状況です。中学生日曜教室については、企業チームOBの方等にご協力をいただく等、取り組んでいるところです。社会全体を巻き込んだ企業への働きかけについては、将来的な課題とさせていただきます。

(委員)

私の会社にも指導者不足に対する動きがありました。企業側目線で言うと、どれだけニーズがあるのかわからない。行政側からは言いつらいこともあると思いますので、連携が取っていくことが大切だと思います。

(委員)

企業側はSDGsの取組みが盛んなので、うまく絡めて展開をできればと思います。

(委員)

子供が3人、小学生・中学生・高校生といますが、高校の部活動の活動量が中学と比べて、親が心配になるくらい多いです。子供の居場所がなくなってしまうので、学校にも言いつらい雰囲気があります。OBの子も手伝いにきていますが、練習量が多い部活動を経ているので、それが当たり前になっています。昔と今では、指導方法も変わっているので、中学校の部活動を地域移行するうえで、指導者が足りないからと言って、競技をしたことがある人を闇雲に探すのではなく、指導者として教育ができるような仕組みを作ってから、指導をしてもらえるようになっていただきたいと思います。中学校の部活は今の時期、1時間もない日があります。そういう子が高校で部活をする時に、うまく適応できなくて、やめてしまう可能性があるのではないかと感じています。地域移行をうまく活用して、高校の部活動ではなく、地域にそのまま続けていける仕組みを作っていただけると子供の選択肢も増えると思います。また、高校で挫折して、競技から離れることを防ぐのにも地域移行をうまく活用できないかと思います。

(事務局)

中学生と高校生の活動量の違いについて高校生の活動量を把握していないので、わかりかねますが、中学校では部活動のガイドラインに基づいて身体の成長のために、土曜日日曜日のどちらかは休む等、実施しています。

(委員)

子供が私立のため、公立のことはわかりかねますが、高校の問題ですけど、練習時間が多いです。中学校ではガイドラインに沿って実施し、高校ではガイドラインがない場合、ギャップが生じることにより、子供がやりたいことを諦める状況を防げればと考えています。

(事務局)

例えば、小学校や中学校の体育館を夜間で利用している地域のクラブは多くあります。吹奏楽のクラブがどれだけあるのかは、把握ができていないですが、そういったものも活

用はできると思います。

(委員)

練習についていけなくて、部活動を辞めた子を見ているので、地域移行で楽しくできる仕組みができればと思います。

(事務局)

地域の団体がどのような団体なのか、わからないと入ることは難しいので、同じフォーマットで写真を使って、各団体の特徴がわかるよう公開しています。また、体験会の有無なども掲載しているので、体験してから団体に入るような形で取り組んでいます。

(委員)

選択肢が増えると競技を続ける子も増えると思いますので、そのような取組みは良いと思います。

(委員)

今のところはスポーツ環境の根本的な課題だと思います。バスケットの連携組織でも勝利至上主義や指導者のハラスメントについても話し合ってきました。また、LTAD といって、ライフサイクルでのスポーツの関わり方も世界的に言われています。バスケットでは日本バスケット協会も指導者養成のところで取り組んでいます。また、地域移行に関する指導者において、指導者のレベルアップは必要ですが、ボランティアで押し付けると皺寄せがってしまうので、大変難しいです。教える側・教わる側・支える側のそれぞれが地域として協力してやっていくことが地域移行では大切な考え方と思っています。

(委員)

子供の部活動をみて思うのが、練習するのが当たり前で周りあまりみえていないような気がしています。部活動の地域移行でも、1つ1つの団体が周りの状況を確認できるよう市が方針を示して、声掛けをすることが大切と考えています。周りの状況を確認することができるだけでも、自分たちの現状に気づきを得ることがあると思いますので、お願いします。

(事務局)

団体とは抽選会等で会う機会がありますので、定期的にコミュニケーションを取ってまわりたいと思います。

(委員)

スポーツ実施率が上がった理由として、質問の項目を変更したという説明がありましたが、「徒歩や自転車による通勤通学」が項目としてあるので、上がるのは当然だと思います。こちらを入れた意図はありますか。

(事務局)

国や県、他自体と比較するためにも、同様なアンケート項目に修正しました。

(委員)

10年間の計画の中で、メインの成果指標が変わってしまうと、なぜ上がったのか下がったのか、要因がわからなくなってしまう。他自体の比較も大切ですが、分析をするうえで、10年間は一貫して同じ指標で同じ方法でやられた方が良いと思います。無作為抽出

でアンケートの対象者を選出されていると思いますが、男性より女性の方がスポーツ実施率が低いとか、その時の回答者の比率によって集計が変わってくる場合があります。後程補正をかけた修正結果になっているのでしょうか。

(事務局)

他部署が実施したアンケートであり、細かいデータのフィードバックを受けておらず、HPにも掲載されていないので、把握はできていない状況です。

(委員)

年代が偏ってしまうと結果も偏ってしまうので、各年代が回答しやすいよう工夫されることが大切だと思います。そして、それを行うためには、調査・設計・分析ができる専門的な知識を持った人の雇用や協力体制を構築してやられていくことが重要だと思います。

(事務局)

先ほどの回答の補足をさせていただくと、我々のスポーツ振興計画は国、県、市という形で紐づいています。国、県いずれの計画もスポーツ実施率は70%を目標に掲げています。国は実施率を出すために毎年調査を実施しています。国がスポーツの定義を掲げている中で、当市に落とし込んだ場合、どれだけのパーセンテージになっているのか、把握をしたいという思いもありました。

(委員)

全体目標や個別実績においても「みつけようマイスポーツ ひろげよう元気な笑顔」を実現に向けて個別目標だと私は認識しています。各スポーツ団体にこうしてほしい等、様々な意見がある中で、私はハラスメントに関してはスポーツ環境に繋がるので、もっと改善していく必要があると思っています。「みつけようマイスポーツ ひろげよう元気な笑顔」に直結するところなので、ハラスメントが撲滅できればと思っています。少なくとも、日本バスケットボール協会は暴言・暴力の根絶ということを第1に掲げて、指導者の養成に1番時間をかけているところです。安城市が日本の中で、笑顔溢れてスポーツをしている市だと胸を張って言えるようになっていただきたいと思います。

【全委員了承】

(2) 第2次スポーツ振興計画改訂版に係る令和6年度事業計画(案)について

【事務局説明】資料P45～46

【質疑応答】

(委員)

「重点施策① ラジオ体操の普及啓発」の中で、正しい動きができるようにラジオ体操教本の配布やラジオ体操学校向け講師派遣授業等、子どもを対象に実施している事業が多くみられます。ラジオ体操をきっかけにスポーツの実施に繋がったかどうかというデータや実感等はあるのでしょうか。

(事務局)

実施効果というアンケート等は実施をしていません。

(委員)

私の子供が教本をもらってきたのですが、教本をどうしたのかと聞いたら捨てたと言っていました。口だけだと思いますが、小学1年生に配布していて、それがどれだけ活用されているかは少し疑問に思われます。ラジオ体操の普及を小学生に行うのは、どれだけ効果的なのかは検討された方が良いと思います。小学生の時期は1人で行うよりも仲間と一緒に運動したり、楽しく行う、単一の動きではなくいろんな動きをすることが重要と言われている中で、ラジオ体操は気軽にできるけど適したものなのかは、考えたほうが良いと思います。例えば、学校にいる時の運動をしやすい環境作りや学校外での運動をする機会を増やす等、子供は違った視点のアプローチをしても良いと思います。

(事務局)

夏休みの間に実施している「おはよう！ふれあいラジオ体操会」はマクドナルドさんにご協力をいただいて、参加してくれた子供に引換券を渡して実施しています。そこでラジオ対応を覚えてもらったり、体育の授業で最初にやっていただいたりしています。ラジオ体操はケガの予防で実施する面がありますが、そのようなことも覚えていただけたらと思います。1年生への教本の配布については、検討しないといけないと考えています。

(委員)

ラジオ体操の教本配布や先生に正しい指導法を教える等は予算の割に効果が低いと思いますので、検討をお願いします。

(委員)

指導者はより良い指導方法がないか、より良い練習はないかと考え続けることが大切です。施策についても目標に対して、より良い方法がないかと真摯に考え続けることが大切だと思います。小さい頃に様々な運動をすることによって、運動能力や運動神経があがるような働きかけの方がスポーツが得意になっていく、だから好きになるという順番もあるので、そのような取組みも実施した方がよいと思います。

(事務局)

事業を進めていくことで、そのような視点も踏まえて実施してまいりたいと思います。

(委員)

ラジオ体操の事業は子供に焦点を当てているように見えるが、私の町内では毎月1回ラジオ体操があります。参加者は子供よりも高齢の方が多いです。子供がたくさん来てもらえるようにラジオ体操の後にじゃんけん大会をする等、子供を集めています。ラジオ体操がスポーツの普及に繋がっているのかはわかりかねるが、地域で核家族化が進んでいる中で、コミュニケーションを作る場、地域のコミュニケーションの活性化には合っていると思います。

(事務局)

ラジオ体操は高齢者にすると気軽に慣れ親しんだ体操だと思われれます。第2次スポーツ振興計画の中で、重点施策として取り組んでまいりましたので、第2次スポーツ振興計画の間は引き続き、取り組んでいきたいと思います。

(委員)

スポーツ推進委員なので、様々な競技を行う前に、みんなでラジオ体操を行っています。
(委員)

私が指摘したのは、ラジオ体操教本配布とラジオ体操学校向け講師派遣授業のことで、地域でやられることは繋がりが増える等、良いことだと思います。

「重点施策② 企業とのスポーツ連携の強化」ホームチームサポーター事業のクリニックについて伺います。クリニックを実施したことによって観戦に繋がった事例や観戦に繋がる取組みはされているのでしょうか。

(事務局)

クリニックは取り組んでいるところに教えに行っています。その中で、希望者の方にチケットの配布や声掛けをすることによって、中学生や小学生に観戦に来ていただいています。また、クリニックの参加者に対して、GTR ニッセイの応援バスツアーを企画して、参加希望者が30名ほどいたのですが、雨天で試合が中止になってしまいました。

(委員)

クリニックを実施したら、なるべく期間を空けずに観戦に繋がるようにセットで検討された方が良いと思われれます。例えば、バスツアーではなく、チケットを配ることによって、子供と大人が来れるようにする等、観戦できる仕組みも検討された方が良いと思います。

別の事業ですが、「安城市のスポーツ選手と遊ぼう！」において、保育園児を対象としています。せっかく有名選手が来てくれているのに保育園児だと誰だかわからないので、もう少し選手がわかる小学校や中学校を対象にしても良いと思います。保育園児だと年1回来るよりも頻繁に遊んでくれる人の方が重要なので、違う方法で実施された方が良いと思います。

(事務局)

園児だとストラックアウトを用意して、ソフトボールの選手が教えたりしていますが、子供たちも記憶に残っているようでした。何年か1回はこのような機会を提供したいと考えています。委員から指摘があった対象の範囲の拡大については、ホームチームの事情もありますので、どれだけできるかはわかりかねますが、働きかけはしてまいりたいと思います。

【全委員了承】

4 その他（第3次スポーツ振興計画策定について）

(委員)

事業者はどのようなところを想定しているのですか。

(事務局)

コンサルがメインになると思われれますが、提示した金額以内で、仕様書に基づいて実施いただける事業者に手を挙げていただきます。

(委員)

金額で業者が決まるのですか。

(事務局)

金額も参考にしますが、プレゼンで事業者から提案を頂いて、内容が良かったところを選んでまいります。

(委員)

策定の時に、公衆衛生等の専門な人材を関われるようにされた方が良いと思います。また、スポーツ実施率を目標に掲げられると思いますが、この数字だけを目標に掲げると到達できた、できなかったという2つの結果しかないので、前段階の意識や知識等も評価に入れてもよいと思います。そうすることによって、どこまで到達できたのかを評価することができますので、今後の話しになるとと思いますが、お願いします。

※その他（全体に対する意見等）

(委員)

次回は第3次スポーツ振興計画策定がメインになるのですか。

(事務局)

次回についてですが、令和5年度については今回見込みで報告していますので、正式に固まったものを報告させていただきます。また、令和6年度の事業についても細かく説明します。そして、第3次スポーツ振興計画策定に向けた体制やスケジュールについて詳細を説明させていただきます。大まかにいうと、令和6年度はアンケートの実施と分析、その内容を踏まえて、令和7年度に骨子案等を策定してまいります。

(委員)

会議の進め方ですが、事前に資料を送付していただいているので、当日は資料の説明は省略して、なるべく議論をする時間を多く設けた方が良いと思います。

以上